

2025  
Vol.37  
(Winter)

# 看護大から こんにちは

## CONTENTS

|                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| 理事長からのメッセージ                     | 1   |
| スタートアップ講座                       | 2   |
| オープンキャンパス2024                   | 3~4 |
| 公開講座・出張！ひむかアカデミア                | 5~6 |
| サークル紹介(バドミントンサークル)              | 7   |
| 令和7(2025)年度<br>公孫樹祭(大学祭)の開催について | 7   |

オープンキャンパスの様子  
(交流サロン)

オープンキャンパスの様子  
(体験授業)

# 理事長からのメッセージ

Message from the Chairman



## アフターコロナの 感染予防のススメ

理事長

藪田 亨

本学に赴任して間もなく4年が経過しようとしています。赴任当時を思い返すと、まだ新型コロナウイルス禍の中で、学部4年生の皆さんの入学式は全員マスク姿、高木講堂の座席は間隔を空け、保護者の出席もなしという状況でしたし、授業開始後もしばらくはキャンパスでほとんど学生の姿を見ない日が続きました。当時は学内の至る所に手指消毒液が置かれ、3密を避けるよう皆が行動していました。

令和5年5月に新型コロナが5類感染症に移行したことに伴い、社会的な行動要請は随分と緩和され、私たちの生活は基本的には良い方向へと変化をしました。そのような中で最近感じるのは、コロナ禍であれだけ習慣づいた（少なくとも自分ではそう思っていた）感染予防行動を実践できていないということです。マスクについては、日頃から携帯し、状況に応じて着脱しているのですが、外出先から帰宅した際一応手洗いはしているものの、当時のようなこまめな手洗い・手指消毒が実行できていません。「喉元過ぎれば熱さを忘れる」の典型的な悪いパターンです。何事も「継続」することは難しく、そのためには高い意識を持たなければと改めて感じています。感染対策は個人判断が基本になりましたが、手洗い・手指消毒が有効であることは変わりません。

皆さんは実行されているでしょうか？学生の皆さんは、感染予防対策の重要性を十分に認識し実践してくれているものと期待を込めて思っています。5類に移行したとはいえ、高齢者を中心に年間3万人以上の方がお亡くなりになり、後遺症に苦しむ方も大勢おられます。この冬も新型コロナやインフルエンザなどの感染症が流行するかもしれません。

特に学生の皆さんは就職、進級等のために重要な国家試験や学内試験などの時期を迎えます。これまでの努力を無駄にしないよう、自分自身そして周囲の仲間のためにも、医療に携わる者としてふさわしい高い意識で感染予防に取り組むようお願いします。



# みやぎきの医療を支える看護学生スタートアップ講座

実行委員長 教授 川北 直子

令和6年12月20日（金）に、本学にて「みやぎきの医療を支える看護学生スタートアップ講座」を開催しました。本講座は、大学卒業後、宮崎県内／推薦を受けた市町村で活躍するという強い意志を持つ一般推薦／地域推薦入学予定者を対象とし、入学前から宮崎県や地域の医療・看護の現状や課題への関心を高め、入学後の学修に意欲を持って臨むための入学前教育の一環として行っているものです。令和元年より、地域推薦入学予定者を対象に行っていましたが、昨年より一般推薦入学生にも対象を広げ、今年は入学予定者と保護者67名が参加しました。

まず、宮崎県の医療・看護の現状と課題の説明（宮崎県医療政策課）、宮崎県内・地域医療の場で活躍する卒業生の活動報告（黒木祐子さん 県立日南病院、瀬戸口莉子さん えびの市立病院）、現1年在学生が入学前に取り組んだ課題「みやぎき・地域医療を考える」の成果発表を、入学予定者全員が熱心に聴いていました。

その後、在学学生企画による交流会が開かれ、参加者から「先輩方がとても優しく嬉しかった」、

「大学生活が今日でより楽しみになった」といった声が聞かれました。地域推薦入学生は、市町村の担当の皆様との面談で、地域医療に貢献したいと意気込みを語ってくれました。本講座をきっかけに、

4月には活き活きと学生生活をスタートしてくれることを期待しています。

なお、5月の大学祭でも、入学前課題の成果を展示する予定です。学生達も交替で会場におりますので、是非お立ち寄りください。







# オープンキャンパス 2024



体験授業「よく噛んでいますか？噛めていますか？」

令和6年7月21日（日）にオープンキャンパスを開催しました。

当日は、高校生284名、保護者220名、合わせて504名の方々にご来場いただきました。

第1部では、本学の概要説明、入試概要説明、在学生による大学生活紹介・質問コーナーを実施しました。質問コーナーでは、参加者の方からたくさんの質問があり、大学の様子を直に感じて大学生活をイメージしてもらう良い機会となりました。

第2部では、7つの体験授業、教員との個別相談会、施設自由見学、在学生との交流サロンを行いました。

体験授業では大学の授業に触

れ、看護のすばらしさや魅力を感じてもらうため、「なるほど！赤ちゃんのふしぎな能力」、「体験！心肺蘇生！」など7つの体験授業を開催しました。各授業には、多くの高校生が参加し、特に体験型の授業では各教室で満員となりました。授業の中では、学生ボランティアの在学生と一緒にAEDや赤ちゃんの模型など日頃の講義で使用している道具などに触れていただきました。

個別相談会では、本学の教職員が高校生や保護者からの相談に個別に対応をしました。学部だけでなく、別科助産専攻と大学院に関する質問も多く、将来、助産師や保健師になることを見据えている高校生も見られました。

参加後のアンケートでは、「宮崎県立看護大学の魅力を知ることができた」、「大学生活を具体的にイメージすることができ、受験勉強への意欲が高まった」などの感想が寄せられました。



個別相談会



体験授業「体験！心肺蘇生！」



## 大学院



令和6年6月22日（土）に大学院看護学研究科のオープンキャンパスを開催しました。学部生や社会人など県内外から31名の方々にご参加いただきました。

当日は、本研究科の概要説明や公開講義、各課程・コースに分かれてのカリキュラム等の具体的な説明が行われました。また、希望する領域の教員との個別相談を実施しました。

終了後のアンケートでは、「研究にはどのようなものがあるのか、どのような視点を持って取り組めば良いのかが見えてきた。」「具体的なカリキュラムや実習内容を知ることができた。個別相談も丁寧にのってもらえて、受験前に安心できた。」などの感想が寄せられました。



令和6年7月21日（日）に別科助産専攻のオープンキャンパスを開催し、20名の方々にご参加いただきました。

オープンキャンパスでは、本学の教員の紹介から始まり、助産師の業務や、目指す方法、求められる資質などについて説明しました。さらに、本学別科助産専攻のカリキュラムや取得可能な資格、入試情報、また、学生生活を送る上で必要となる費用について案内しました。説明終了後は、希望する方に個別面談も実施し、参加者は本学の教員に各々の疑問や相談を投げかけ、進路の参考としていたようでした。

別科助産専攻のオープンキャンパスは例年7月中旬に実施しています。助産師を目指す方は、ぜひ参加してみてください。

## 別科助産専攻





## 公開講座

## 「からだもこころも生き生き健康生活」

事業代表者 講師 山岡 深雪



本学の地域貢献等研究推進事業として、宮崎県内にお住まいの方を対象に、毎年、健康に関する講座を開催しています。令和6年度は、4回の講座を開催しました。

第1回講座では、「老後・介護を考えよう」をテーマに、映画「ぼけますからよくお願いします～おかえりお母さん～」の上映会と映画監督である信友直子氏の講演会を開催しました。通常上映とバリアフリー上映（字幕付き・手話通訳）を2会場で行い、県内より197名の参加がありました。「これからの人生をどう生きるべきか考えさせられました」、「親が健康なうちに親の考え方、どう生きたいか知る話し合うことも必要だと改めて感じた」、「認知症の方を支える中で、家族の存在がいかに大きいかを改めて知ることができました」、「このような講座は広く社会に知ってもらうことが大切です。これからも続けてください」など多くの声が寄せられました。

これからも皆様の健康生活の一助となるような講座を開催していきたいと思います。参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。



バリアフリー上映(小講義室3)



通常上映(高木講堂)

## 第2回



串間 敦郎 教授  
「健康寿命延伸のために」

## 第3回



原村 幸代 助教  
「体験！いきいき健幸体操」

## 第4回



田中 美智子 教授  
「よい睡眠を！  
認知症予防のために」

# 出張！ ひむかアカデミア

看護研究・研修センターでは、本学教員が地域に出向く出前講座「出張！ひむかアカデミア」を行っています。今回は、その一部をご紹介します。



## 「介護予防運動の方法と実践」

講師 中角 吉伸

小林市社会教育課のご依頼で、健やかな暮らしづくりに向けて、運動がもたらす効果を食事や睡眠、免疫力との繋がりを含めてお話しさせていただきました。転倒予防体操などの実践を交え、日頃の疑問なども発言いただき、参加者間の問題共有や共感が得られる機会となりました。「日常の隙間時間にできる体操を続けたい。90歳の母にも教えたい」など多くの感想をいただきました。

訓練ではなく、運動が豊かな老後の楽しみの一つとなり、健康に繋がることを期待しております。

## 「災害時の感染症対策」

准教授 勝野 絵梨奈

新富町3団体女性部交流会からのご依頼をうけ、災害時の感染症対策に焦点をあてたお話と、ブラックライトを用いた手洗いの演習をさせていただきました。参加された皆様からは「正しい方法で手洗いを行うことの大切さに気がきました」などの声が多く寄せられました。災害発生時は、ライフラインの遮断や避難所での集団生活などにより感染症が発生しやすい状況となります。自分や大切な人を感染から守るため、平時から正しい方法での手洗いを実践し、日常の習慣としていただければと思います。



## 県民公開講座 「子宮頸がんを撲滅するために」

教授 川越 靖之

宮崎県における子宮頸がんは日本一の罹患率です。そこで令和5年度から子宮頸がん予防に関する健康推進事業を行っています。令和6年8月には都城市のムジカホールで子宮頸がんサバイバーである俳優・原千晶さんをお招きし、講演会を行いました。約100名が参加し、原さんのお話の後、高原町のワクチン担当職員、野田産婦人科の野田俊一先生、看護大学生、地元高校生が参加し、ディスカッションを行いました。当事業では県民へより正確な情報を提供することでHPVワクチンとがん検診の普及を目指しています。最終年度（令和7年度）は県北で講演会を開催する予定です。





## バドミントンサークル

サークル長 甲斐 拓海



私たちとバドミントンをしてみませんか？  
 こんにちは。私たちバドミントンサークルは毎週水曜日に2時間ほど活動しています。初心者、経験者関係なくペアを組んでダブルスをしたり、真剣勝負のシングルスをしたりなど、皆で楽しく体を動かしています！

サークルメンバーの半分以上が大学からバドミントンを始めていますので、初心者でも安心して始めること

ができるスポーツだと思います。また、現在、活動できるサークルメンバーが少なくなっており、少人数で活動することが多くなりました。途中加入もできますので、少しでもバドミントンに興味を持ってくれた人は体育館に来て貰えると嬉しいです。待っています！



## 令和7(2025)年度 公孫樹祭の開催について

いちよう

令和7年度公孫樹祭実行委員長  
 市来 仁織



こんにちは。令和7年度のテーマは「輪～つながり～」に決定しました。このテーマには、先輩後輩や友人とのつながりはもちろん、公孫樹祭に来てくださる地域の方々などとのつながりを作る場になればという思いが込められています。

今回は、コロナ禍が明けてから少しずつ活気を取り戻してきた公孫樹祭をもっともっと盛り上げたい！という目標のもと様々な出店

やおいしいご飯、舞台発表を企画しています。年齢や性別はもちろん、国籍や障がいの有無に関わらず全ての人が一つの輪になって楽しめるようなイベントになることを目指して頑張ります！皆さんにお会いできる日を心待ちにしております。ぜひみんなで令和7年度公孫樹祭を盛り上げましょう！！

宮崎県立看護大学  
 応援みやび犬



保健師 ひいくん 助産師 むうちやん 看護師 かあくん



宮崎県立看護大学 広報誌

看護大から こんにちは Vol.37

広報誌に関するお問い合わせ／ご意見

〒880-0929 宮崎市まなび野3-5-1 宮崎県立看護大学  
 TEL : 0985-59-7700 / FAX : 0985-59-7771  
 【URL】<https://www.mpu.ac.jp/> 【E-mail】[info@mpu.ac.jp](mailto:info@mpu.ac.jp)

